



# 「自主防災フォーラムから」 自主防災組織支援事業について報告します

問い合わせ  
防災室

安城市は、大規模地震対策特別措置法による地震防災対策強化地域に指定されています。このため、市内各地で地域防災の向上を図るために自主防災組織への取り組みを行ってまいりました。この一環として自主防災組織の活性化を目的とした「自主防災組織支援事業」を積極的に実施して



## 自主防災フォーラムのあらまし

2月27日に文化センターで開催し、23人が参加。モデル地区の自主防災会(高棚町・古井新町)による事例発表と専門家によるパネルディスカッションを行いました。

●司会者 廣田直敬氏(NHKアナウンサー)

●パネリスト  
●国崎信江氏(危機管理アドバイザー)

●バイザー  
●川口孝嗣氏(刈谷市職員)

●加藤辰雄氏(榎前町内会長・安城市自主防災組織連絡協議会副会長)

●太田佳男氏(安城市消防団副団長)

●天野竹行氏(特定非営利活動法人NPO愛知ネットワーク理事長)

## 参加者の声

フォーラム参加者にアンケートを行いました。

●回答数 91件

Q1 フォーラムを何で知りましたか

市からの案内	49人 (53.8%)
自主防災会からの案内	18人 (19.8%)
町内会からの案内	16人 (17.6%)
文化センターの告知	1人 (1.1%)
人から誘われて	1人 (1.1%)
その他	4人 (4.4%)
無回答	2人 (2.2%)

Q2 事例発表はどうでしたか  
Q3 パネルディスカッションはどうでしたか

大変参考になった	Q2	28人 (30.8%)
	Q3	28人 (30.8%)
参考になった	Q2	44人 (48.3%)
	Q3	49人 (53.8%)
普通	Q2	12人 (13.2%)
	Q3	9人 (9.9%)
あまり参考にならなかった	Q2	4人 (4.4%)
	Q3	1人 (1.1%)
参考にならなかった	Q2	0人 (0%)
	Q3	0人 (0%)
無回答	Q2	3人 (3.3%)
	Q3	4人 (4.4%)

Q4 今回の自主防災フォーラムで一番参考になったことは何ですか

- 女性・子どもを含めた防災
- 女性や子どもの視点で活動をしていくことが参加意識向上につながる
- 地域のコミュニケーション力が高い女性の力を活用する
- 避難所には、子どもの面倒を見る人が必要
- 町内や地域のコミュニケーションが大切
- 日ごろのコミュニティ活動が災害時に役に立つこと
- 家庭・地域・町内会のそれぞれに信頼関係が重要
- 地域の活動が地域性に合わせて工夫されていたこと

〈防災組織〉

- 防災のみでの組織運営は難しい
- 組織役員の継続が課題
- 自主防災会の横のつながりが必要
- 高齢者・障害者など弱者への登録制度による組織化
- 災害が起こる前の準備が大切
- 常に災害時の自分のやるべきことを考える
- 年に1〜2回の訓練ではダメ
- 身近にくつ・スリッパ・メガネ・呼笛・ラジオなどを置く
- 防災は生活のなかにある
- 常に防災意識を高めて、家族の中でも常に話し合う必要がある

〈その他〉

- 自分自身の安全は自分で守る
- 失敗を多くしてこそ訓練になる
- 防災は福祉の一部
- 災害時の情報確保が大切

- 「自分自身の身の安全は自分で守る」ということをみんなに確認してもらうためのアイデア
- 住民に防災意識を高める方法
- ら防災訓練までの過程を疑似体験

## 天野竹行氏の感想

中身の濃い非常に有意義なフォーラムでしたが、参加者が少なく、今後、より多くの人に参加してもらうことが課題だと感じています。今回事例発表をした高棚町と古井新町は、キーマンの存在が大きく、町内会組織がキーマンをしっかりと

フォローしているのが特徴的でした。全体に見て、自主防災組織は活動がマンネリ化しているところと、先進的に進んでいるところの二極化傾向があります。今後の組織活性化の切り口としては、女性の活用がポイントになるのではないのでしょうか。



- 大筋を観客にも示してディスプレイの関係についてもっと詳しく話し合いを
- 行政は災害時でも業務を行うことがあることを、市民へ周知を
- のこぎりの使用方法や人工呼吸などの説明、マニュアル作成など
- フォーラム自体の市民全体への浸透を
- 高層建築物の避難方法
- 映像により、災害の発生が